

実践 1

正しいと思われたら、無条件に着手し、果敢に推し進めていけ。必ず神様が共に働くことであろう。

善なることなら損害を受ける覚悟でやってみなさい。絶対に滅びることはない。

自分が計画することは何でも果たすことができる。しかし、三つの峠を越えることのできる決死的な努力が必要なのである。

実践 2

我々には武器がない。しかし、赤い血、赤い汗、赤い涙を砲弾として突撃戦を開始しよう。

同一なる実力をもっている中で勝つ秘訣は、たくさん動くことである。

天は、命令してくれることを待つ心情の上に運行なさる。

実践 3

神様は、人間が願いもせず、思いもしないことに対しては干渉なさらない。

我々は、理念に燃えているし、神様の理念に向かっているし、天運が共にありさえすれば世界を動かすことは問題ではない。

一寸の土地、一人の人でも探し出し、神側に渡そう。

実践 4

目標がはっきりしなければ、生活が明確になり得ない。

私が汗を流す時、父の汗が混じっていることを感じなければならず、私が涙を流す時、父の涙が混じっていることを感じなければならず、私が血を流す時、父の胸の血が締めつけられるのを感じなければならない。この心さえもって神様をつかんでいれば、絶対に滅びない。

あなたの若い血が尽きる前に、この民族を立てて神様の前に捧げることを祈りなさい。年を取って戦うよりは、若くして忠臣、孝子女となるように願いなさい。

実践 5

引っ張れられて歩む群れとなってはいけない。

み旨を知ったなら、自らみ旨を中心としての目的を与えてくださいといって、自らの道を開拓していかなければならない。

時の転換点における勝負は、時間と努力が問題である。そしてこれを動かしていくためには、勇気が必要である。強くて大胆な勇気は、信念から生ずるのであり、信念は、無責任な立場ではもち得ない。

実践 6

自動的で、自進的で、自成的な者となろう。

関心のあることを果たし得なければ、大きいことはできない。謎のようなことを多くやっごらんない。

士気を失うな。自信のないところに前進があるはずがない。自ら士気を呼び起こして、事をなしていきなさい。神様は、意欲がないところには協助なさない。

実践 7

我々は、原子爆弾を爆発させるボタンのごとく、人類の良心を泣かせるボタンとなろう。

やることがないとき、生命は死んでしまう。使命がないときには、生命の権利を主張する資格がない。

一から全体まで、サタンより以上にやらなければならない。このような生活に徹しよう。そうすれば、感動して従ってくるようになる。

実践 8

十分な準備が必要である。イエス様にも 30 年の準備期間があった。十分な準備が整えば、実践時代は短く、闘争期はより短くなるだろう

考えないところに物事は起こらない。活動を前進させようとするれば自分を特殊化させよう。そしてそのことのために、眠ることも、娯楽も、愛も、見物も、すべて忘れて全力を尽くしてごらんなさい。

大きい事をなすためには冒険が必要である。そうするためには、まず体を鍛錬しなさい。いくら貧しい食事をしたとしても、朝、運動しなさい。

実践 9

神様は、戦うときは戦わない者を除いて、戦う者を選んで用いる。命を懸けて、み旨のため先頭に立ちなさい。神様は、いつでも命令できる人を探している。

自信のないところに完成はあり得ない。

良心が落ち着かないところなら、早くその場から去りなさい。その場にそのままいれば滅びてしまう。まず、み旨と一致した目的点を立てて、自分の良心点と結びつけ、正確な一つの方向を決めて、一直線上で努力し、誠を尽くすことが重要である。

実践 10

天と地のすべての精力を一つにかき集めることのできる秘法を研究しなさい。同級の同僚が同じことをするとき、自分が一番できないと思うときには、現在自分がやっている仕事のほかに、任せてもらえる仕事は何であるかを知り、誠を尽くすのが、神様の前に近づく秘訣である。

きょう何かの覚悟と決心があれば、これをきょうのものとして立てていかずに、未来のものとして立てていきなさい。

軍隊は、征服して勝利するためにある。あなた方は、すべての障壁を越えいく天の軍隊である。善をもって環境を広めていきなさい。これが我々の目的である。

実践 11

あなたは、サタン世界に監禁された捕虜である。サタンの包囲網を破って新しい道を開きなさい。そうしなければ死ぬ。

戦争に負けた者が味わわなければならない、つらい結果を考えてみなさい。どうして我々が戦いに負けられようか。

これまで歩んできた苦難と涙の道は蕩滅のためのもの、これからは勝利のための栄光の涙を流そう。蕩滅の歴史の中で、涙、汗、血を流したが、今は復帰のための本物の涙、汗、血を流して、この民族、この地を神様に捧げる貴い仕事をなそう。

実践 12

我々は、神様のための闘いをしよう。絶対に滅びない。イスラエル民族が荒野で倒れたのは、勝利しなければならないという信念がなかったためである。

時間を主管できるものは、大物である。時間は、すべてをもってきてくれたり、すべてを奪い去っていったりする。時間を主管できる人は、人生を支配できるものである。

愚かな者とは、時を知りながらも実践しない者である。

実践 13

今までの我々の苦労は、いくらやってもサタンのため。神様が心配なさる復帰の苦労はしたけれど、神様が安心して喜ぶことのできる苦労はしなかった。すなわち、蕩滅的苦労はしたが、復帰的苦労はしなかった。

悪は、今まで善をだまして悪にしてしまったが、善は、悪をだまして善にできなかった。これが、今日のキリスト教がみ旨を果敢になし得なかった理由かもしれない。

自分自らを刺激することができなければならない。

実践 14

生きている者は、発展するのが当然だ。生きた死体となってはいけない。

正しい考えを多くし、実践を多くなせば、人より先に進むようになる。考えてばかりいて滅びた人は多いが、実践をしていて滅びた人はいない。

楽しみを感じながら仕事をしなさい。

実践 15

闘志力以上の財産はない。

食物をおいしく食べる方法を考えなさい。そして眠りを征服せよ。歴史的な人物たちは、一日に三時間しか休まなかった。

良心を中心として準備し、実践しなければならない。我々の動きは、人々の良心が爆発して、我々の側にならざるを得ない立場をつくっておこうとするのである。

実践 16

人よりも多く考え、多く準備し、多く動きなさい。そして自分が行ったり来たりした所はプラスにはしたとしても、絶対にマイナスにはしないという信念をもって進まねばならない。

涙と血と汗が、我々の武器である。

イエス様は、神様のみ旨と理念を残した。皆さんも、父のみ旨と理念を残さなければならぬ。そうするためには、見せて誇り得る実績がなければならぬ。

実践 17

神様に対し、話す言葉のある人は恵みを受けるであろう

真実を連結させるにおいては、人のものを借りてはならない。自分のものでなければならぬ。自分の実績でなければ、後孫や後代を導くことはできない。

内容だけでもってはいけぬ。誰もが認め得る実績をもちなさい。

実践 18

我々は、神様と人類と民族と子女の前に、少なくとも3つは分け与えることができる、自慢し、誇れるものをもたねばならぬ。

いかなる者もなし得なかつたことを、我々はなしておこう。

神様の命令があるとき、これに応じなければ、神様は再び同じ命令はなさない。

実践 19

運命を怖がる人は、運命に食われてしまう。しかしその運命にぶつかっていく人には運命が道を避けてくれるのである。

我々の生活において、眠ること、食べること、着ることを少なくし、この三つの上に努力を加えれば、勝利することができる。人が眠るとき眠らずに、人が遊ぶとき遊ばずに、人が食べるとき食べずに働かなければならない。最後の決勝戦に向かって走っているのです、休む間がない。

神様の命令を受ける時から、神様の時は始まるのである。

実践 20

時は、知らないうちに尋ねてきて、知らない間に去っていく。我々がみ言を受けるその日から、私の最後の日が始まり、願いの日は始まるのである。

春の日ざしは、冷たい冬の下でも準備をしている。今の時代を心配するより、未来を心配すべきではないか。

批判する人は、革命的なことを行えない。

実践 21

小さな希望をもって、大きな準備をなさい。

イエス様は、宇宙的な純粋性と、高潔性と、敵愾心と、和動心をもって来られた方である。我々もこのような理念をもって、イエス様の代わりに実践しない限り、イエス様によって負わされた荷は、永遠に下ろすことはできない。

これまでは父と子とみ霊(たま)の名で働いてきた。「私の名で働く時を与えてください」と言わなければならない。

実践 22

信念が立たなければ実践にならない。

信念をもって制圧しなさい。忠誠によって凌駕しなさい。行動において強力でありなさい。

三千万のために信念をもちなさい。忠誠を尽くしなさい。闘いなさい。

実践 23

自分を信じて進め！ひたすら一人で行くという立場で、結晶体とならなければならない。

見せてあげて自慢することのできる、固い決心をもって前進しなければならない。

「この地よ！今はこうであるが、何年後には見ていなさい！」という気概が必要である。

実践 24

み旨と目的がいくら大事なものであっても、現せなければ、何の価値があろうか。

み言は、実践によって語らなければならない。

神様は、後退もせず、失敗もしなかった。百年に一步だけでも前進した。

実践 25

闘おうとすれば、自信と万全の準備がなければならない。

すべての創造の行為が歴史的発展をするためには、始めは考え、次には決定したことを準備し、最後には実践しなければならない。

いかなる環境に入っていくとしても、私の生涯において屈しなければ、最後まで残る群れとなる。

実践 26

先生が「ダイヤモンド」の鉱脈を発見すればそれでよいのであって、「掘ってください」とまで言うのか。

自分の精力を 120 パーセント注ぎなさい。そうして失敗するとすれば、それは失敗したのではなく、必ず協働者が現れる

自信をもつためには思想が必要である、思想は過去、現在、未来の歴史に通じなければならない。

実践 27

最後の決勝戦に向かって走るの、休む間がない。

現実に関係することに対して、信念をもって実践する人が、未来の主人公になる。

常に、最後の場は自らが越えなければならない。

実践 28

祈る前に実践することが、祈ることより貴重な場合がある。

一生の間を区分し、計画を立てていかななければならない。一生は短い。

現在の自分の位置を、第 2 段階のための基地にしなければならない。無駄に過ごす人が多い。

実践 29

犠牲は、発展の原動力である。真なるものは弁明が必要ない。

「過去にも勝ったので、また勝つことができる」という確信と信念だけが、最後の山頂を突破できる。

誓いを立てずに実践しなさい。

実践 30

道の世界での約束は、絶対に守らなければならない。

希望というのは現実的なものではない。未来的な夢であるが、その希望が現実的なものとして現れたときには、より多くの価値の喜びをもつことができる。

農夫が種を蒔くとき、元になる種まで蒔くことは愚かなようであるが、これは賢明なことである。それは現実を願ってやるのではなく、未来のより大きな収穫のためである。

実践 31

神様の戦法は、奇襲するのではなく、ゆっくりと正規の戦法を使うのである。もし激戦を始めたときには、戦いに勝利したとしても、獲物を全部使うことはできない。虜にした獲物には完全なものがない。しかし、ゆっくり戦うなら、虜にした獲物もみな使えるのである。

戦いで始まった歴史は、戦いでは解決することができない。ただ和解する道しかない。

強く、また雄々しくあれとは、ほかの誰でもなく、自分に対して言うのである

実践 32

栄光の褒賞をもって多くの民に褒められることよりも、焦る思いをもって何代かの後孫の時代のために苦勞する人がいれば、その人が成功する者である。

一心は父母の心情をたどることによって成り、統一は不幸な条件を共にすることによって成る。

追われる神様に侍って、反対に勝利の進軍をなしていく勇士とならなければならない。

実践 33

天地を主管される万王の王であられる神様が、記憶することのできる、追憶の日をつくれるなら、それが最高である。

後退することも前進することも、自分自身が母体である。後退する人は、人も嫌うが、神様も嫌うのである。